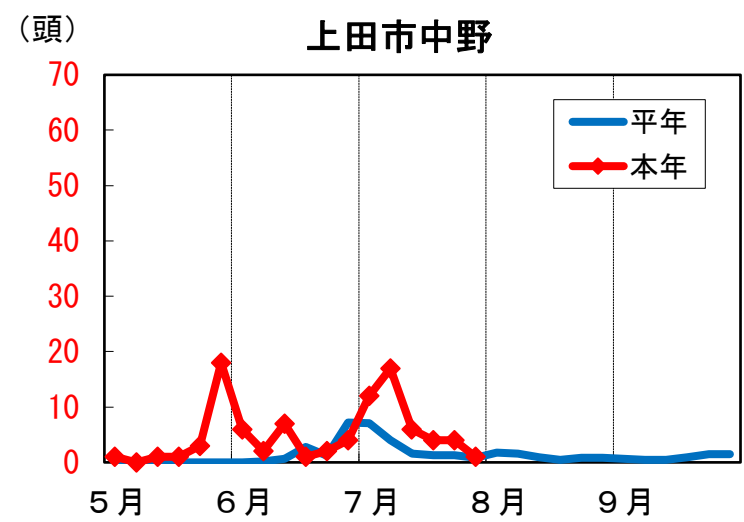


予察灯によるアカスジカスミカメの誘殺消長【令和8年(2026年)】



※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均

・上田市では、5月第1半旬に1頭の初誘殺が確認され、その後は平年と比べて多い誘殺数で推移しましたが、7月第1半旬以降は多く推移しました。なお、7月第6半旬は平年並となりました。

・伊那市では、5月第6半旬に1頭初誘殺され、その後は平年と比べやや少なく推移しました（6月第4半旬～第5半旬は予察灯の電球切れのため欠調）。

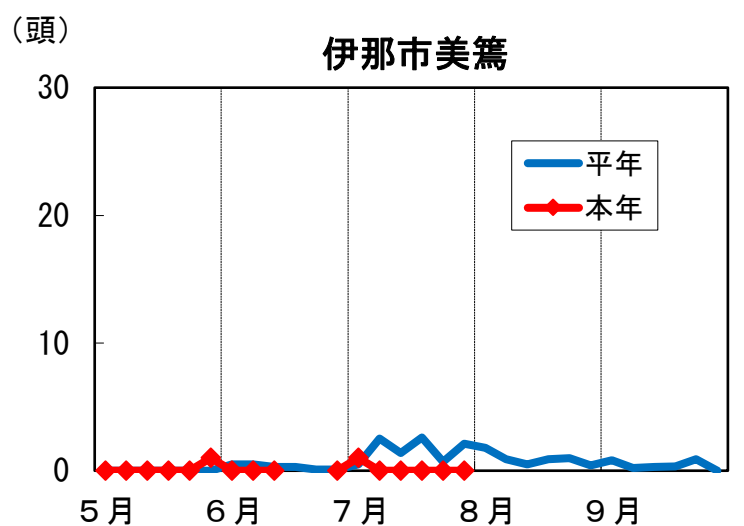
・飯田市では、5月第4半旬に2頭が初誘殺されました。その後は、7月第3半旬に一時的に平年と比べかなり多かったものの、全体としては平年並～やや多く推移しました。

・南木曽町では、5月第3半旬に1頭初誘殺され、その後は概ね平年並に推移しましたが、7月第2半旬以降は平年と比べやや少なく推移しました（6月第6半旬～7月第1半旬は予察灯の電球切れのため欠調）。

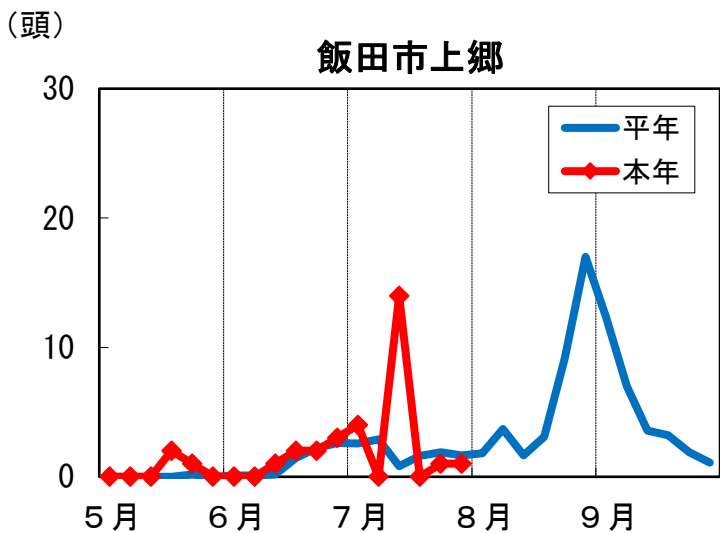
・安曇野市では、7月第2半旬に1頭初誘殺され、その後は平年並に推移しました（6月第2半旬、7月第4半旬～第6半旬は予察灯の電球切れのため欠調）。

・須坂市八重森では、6月第4半旬に2頭が初誘殺され、その後は平年並に推移したものの、6月第6半旬以降は平年と比べてかなり多く推移しましたが、7月第4半旬以降は平年並となりました。

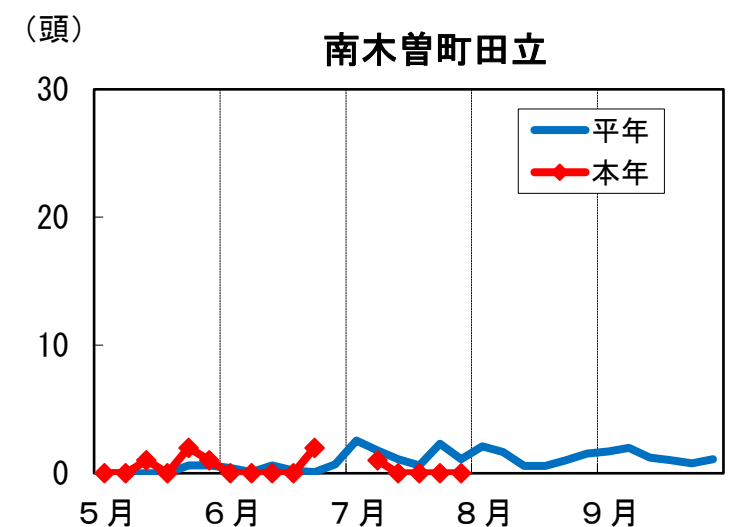
・須坂市小河原では、5月第5半旬に1頭が初誘殺され、その後は平年並に推移したものの、7月第2半旬以降は平年と比べて多く推移しました。



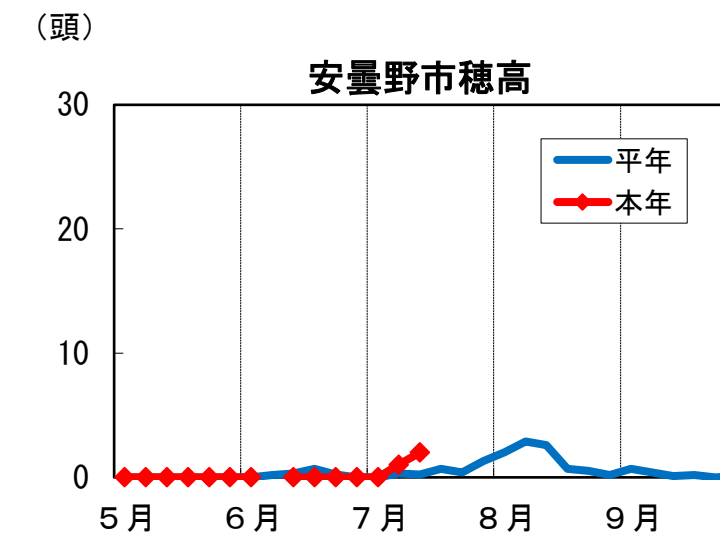
※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均



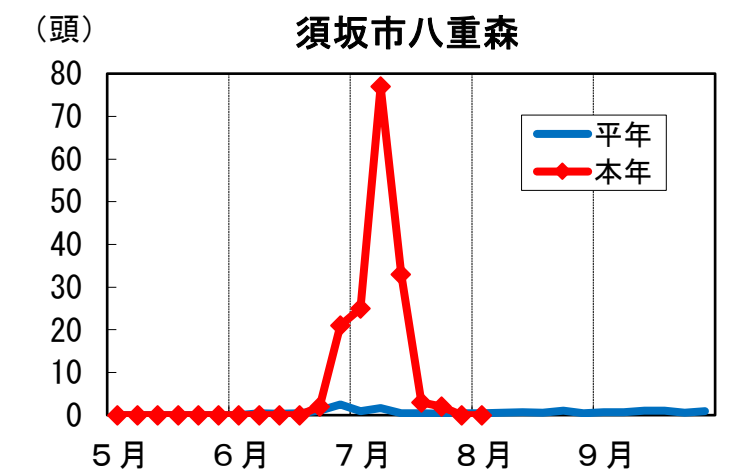
※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均



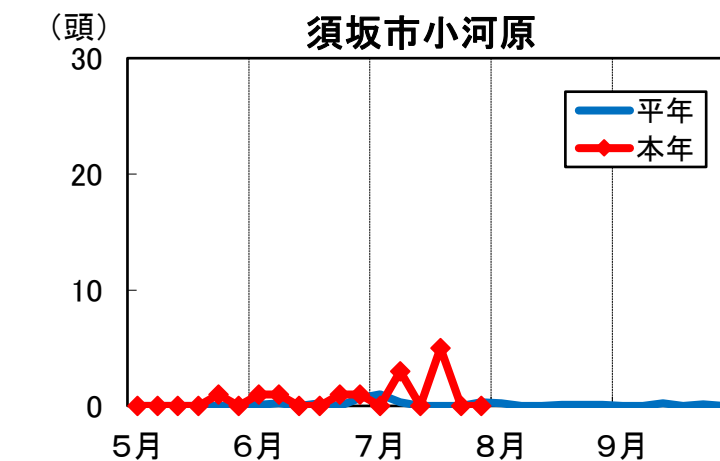
※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均



※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均



※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均



※平年：平成28年～令和7年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

斑点米を発生させる主要害虫のアカスジカスミカメは、卵で越冬し、畦畔や水田周辺のイネ科牧草・雑草地で増殖します。水田への侵入のピークは出穂期6～15日後あたりで、稲への加害時期は開花期と登熟期に集中します。出穂期の早い早生品種で被害が多くなる傾向にあります。上のグラフは予察灯(ライトトラップ)で捕獲された成虫数です。

2 防除時期・対策等

出穂期10日後に防除を実施し、常発地では7日～10日後に追加散布を行います。粒剤は効果の発現までに時間を要するため、3日程度早く処理します。水田畦畔の草刈りは出穂2週間前までに実施し、出穂直前はカメムシを水田内に追い込む恐れがあるため行いません。